

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平9-64977

(43)公開日 平成9年(1997)3月7日

(51)Int.Cl. <sup>6</sup>	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
H 0 4 M 3/42			H 0 4 M 3/42	D C1-C2
				T C1-C2
1/57			1/57	C1-C2
H 0 4 Q 3/58	1 0 1		H 0 4 Q 3/58	1 0 1 C1-C2

審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 3 頁)

(21)出願番号 特願平7-217220

(22)出願日 平成7年(1995)8月25日

(71)出願人 000005821

松下電器産業株式会社

大阪府門真市大字門真1006番地

(72)発明者 永田 武

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

(72)発明者 栗山 英己

神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目3番1

号 松下通信工業株式会社内

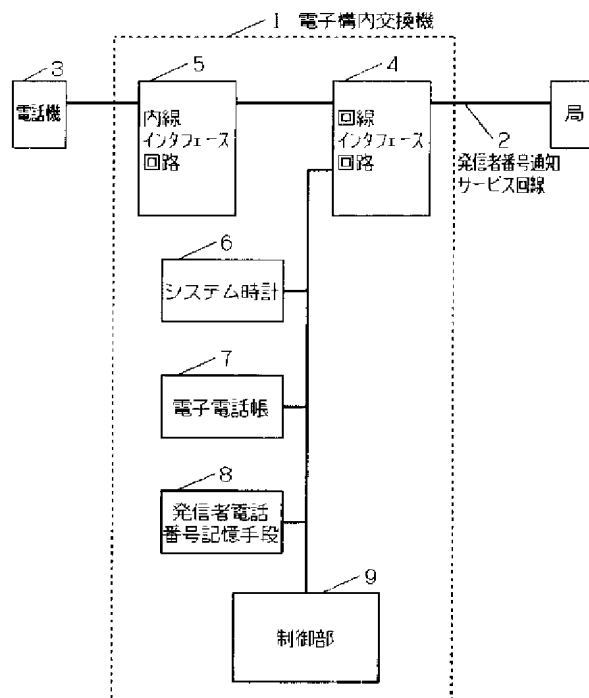
(74)代理人 弁理士 滝本 智之 (外1名)

(54)【発明の名称】 電子交換機

(57)【要約】

【目的】 電子電話帳に自動的に登録することにより、登録作業を容易に行うことができ、また、折り返し発信を容易に行うことができる。

【構成】 発信者電話番号通知サービス回線2からの着信時に制御部9は回線インタフェース回路4を介して発信者電話番号を認識し、同時にシステム時計6より着信時の時間データを読み込み、発信者電話番号と時間データを発信者電話番号記憶手段8に記憶する。終話時に電話機3より直前の通話における発信者名の登録操作を行うことにより、発信者電話番号記憶手段8に記憶された発信者電話番号に名前を付加して電子電話帳7に自動的に登録する。終話時に発信者名や企業名を登録する操作を行わなかった場合も時間データをパラメータとして発信者電話番号記憶手段8より発信者電話番号を検索し、折り返し発信することができる。



**【特許請求の範囲】**

**【請求項1】** 発信者電話番号通知サービスを利用し、着信時に発信者の電話番号を記憶することができる記憶手段と、終話時に使用者が通信端末から名前の登録操作を行うことにより上記電話番号に名前を付加して登録することができる電子電話帳とを備えた電子交換機。

**【請求項2】** 発信者電話番号通知サービスを利用し、着信時に時間をパラメータとして発信者の電話番号を記憶する記憶手段を備え、通信端末から時間をパラメータとした入力操作を行うことにより折り返し発信を行うことができるように構成された電子交換機。

**【発明の詳細な説明】****【0001】**

**【産業上の利用分野】** 本発明は、発信者電話番号通知サービスを利用することができる電子交換機に関する。

**【0002】**

**【従来技術】** 従来、構内交換機において、電子電話帳を作成するには、相手の名前及び電話番号を調べ、それらの両方を構内交換機内部のメモリに登録する必要があった。

**【0003】** また、従来、使用者が折り返し発信を行う際には、相手先の電話番号を調べて発信する必要があった。

**【0004】**

**【発明が解決しようとする課題】** しかしながら、相手の名前は知っているが電話番号を知らない場合には、電子電話帳作成のために相手の電話番号を調べなければならず、登録の際も相手の名前と電話番号を登録する必要があるため、入力ミスを生じるおそれがあった。

**【0005】** また、折り返し発信を行う際には、相手先の電話番号を調べてから、発信を行う必要があり、煩わしかった。

**【0006】** 本発明は、このような従来の問題を解決するものであり、発信者番号通知サービスを利用して電子電話帳を自動的に作成することができるようにして使用者の操作性向上と正確な入力を図ることができるようにした電子交換機を提供することを目的とし、また、発信者番号通知サービスを利用して着信の際の電話番号を時間をパラメータとして記憶することにより、折り返し発信を簡単に行うことができて使用者の操作性向上を図ることができるようにした電子交換機を提供することを目的とするものである。

**【0007】**

**【課題を解決するための手段】** 上記目的を達成するための本発明の技術的手段は、発信者電話番号通知サービスを利用し、着信時に発信者の電話番号を記憶することができる記憶手段と、終話時に使用者が通信端末から名前の登録操作を行うことにより上記電話番号に名前を付加して登録することができる電子電話帳とを備えたものである。

**【0008】** 上記目的を達成するための本発明の他の技術的手段は、発信者電話番号通知サービスを利用し、着信時に時間をパラメータとして発信者の電話番号を記憶する記憶手段を備え、通信端末から時間をパラメータとした入力操作を行うことにより折り返し発信を行うことができるように構成されたものである。

**【0009】**

**【作用】** 上記のように構成された本発明によれば、着信があれば、電子電話帳への登録が可能となるので、電子電話帳作成時にかかる手間を大幅に削減し、電話番号がわからない相手を電子電話帳に登録する際に電話番号を調べる必要がなくなり、電子電話帳のメンテナンスも簡素化することができる。

**【0010】** また、着信した時間さえ記憶しておけば、相手の電話番号を調べることなく、折り返し発信することが可能となる。

**【0011】**

**【実施例】** 以下、本発明の一実施例について図面を参照しながら説明する。

**【0012】** 図1は本発明の一実施例の構成を示すものである。図1において、1は電子構内交換機、2は発信者番号通知サービス回線、3は内線電話機である。電子構内交換機1は、回線インタフェース回路4、内線インタフェース回路5、システム時計6、電子電話帳7、発信者電話番号記憶手段8、電子構内交換機1全体を制御する制御部9を備えている。

**【0013】** 以上の構成について、以下、その電子電話帳作成動作に共に更に詳細に説明する。

**【0014】** まず、発信者番号通知サービス回線2を介して着信があった場合、回線インタフェース回路4を介して制御部9により発信相手の電話番号を認識し、発信者電話番号記憶手段8に一時保管する。

**【0015】** 終話後、使用者が電話機3より、相手の名前（個人名、企業名等）の入力などの登録操作を行うことにより、発信者電話番号記憶手段8に保管されている相手先電話番号に相手の名前を付加して電子電話帳7に登録することができる。

**【0016】** 終話時に一定時間、この操作を行わなかった場合、発信者電話番号記憶手段8に保管された電話番号は破棄される。

**【0017】** 次に、折り返し発信動作と共に説明する。まず、発信者番号通知回線2を介して着信があった場合、回線インタフェース回路4を介して制御部9により発信相手の電話番号を認識し、システム時計6より読み取った着信時の時間と共に発信者電話番号記憶手段8に保管する。

**【0018】** 終話後、使用者が電話機3より、着信時の時間を入力することにより、制御部9が時間データをパラメータとして発信者電話番号記憶手段8で発信者電話番号を検索し、その時間に着信のあった相手に対し、回

線インタフェース回路4を介して折り返し発信を行うことができる。

【0019】なお、電子電話帳作成と折り返し発信について図1の一つの実施例で説明したが、電子構内交換機1にそれぞれの動作に必要な機能のみを備え、別々の実施例として構成することができ、両動作を併用することもできる。

【0020】

【発明の効果】以上説明したように本発明によれば、発信者番号通知サービスを利用することにより、電子電話帳作成の操作を簡便、かつ正確に行うことができ、使用者の操作性を向上することができる。

【0021】また、発信者番号通知サービスを利用し、発信者の電話番号を着信時間と共に記憶することによ

り、折り返し発信を容易に行うことが可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の一実施例における電子構内交換機を示す概略ブロック図

【符号の説明】

- 1 電子構内交換機
- 2 発信者番号通知サービス回線
- 3 内線電話機
- 4 回線インタフェース回路
- 5 内線インタフェース回路
- 6 システム時計
- 7 電子電話帳
- 8 発信者電話番号記憶手段
- 9 制御部

【図1】

